

第1回みんなで支える森林づくり長野地域会議 内容

1 開催日時

平成22年9月24日（金）午前9時15分から午後4時まで

2 開催場所

現地検討 長野市信里地区
千曲市大田原地区
千曲市大池地区
室内検討 千曲市大池総合案内所

3 出席者

委員：神戸直日委員、高橋克典委員、十十木謙一郎委員、
中島佐代子委員、松木重博委員、山口智子委員
長野地方事務所：小林長野地方事務所長、井出税務課長、徳原林務課長
田中林務係長、加藤林産係長、三善普及係長

4 会議の内容

【現地検討会】

（1）長野市信里地区

「みんなで支える里山整備事業」
「地域で進める里山集約化事業」

（2）千曲市大田原地区

「みんなで支える里山整備事業」
「林業再生総合対策事業」

（3）千曲市大池地区

「木育推進事業」

【室内検討会】

（1）開会

（2）所長あいさつ

長野地方事務所長の小林守夫でございます。

本日は、お忙しい中、平成22年度の「みんなで支える森林づくり長野地域会議」へ御出席いただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆様には「みんなで支える森林づくり長野地域会議」の委員としてお受けいただきまして大変ありがとうございます

一昨年創設いたしました「森林づくり県民税」（森林税）を活用して身近な里山の整備を進めるため、委員の皆様をはじめ、市町村、森林組合等のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

特に、本年度の森林税を活用した里山の森林整備面積でございますが、事業実施主体である森林組合及び森林所有者の支援を受けまして、当初予定面積の250haから大幅に増加しまして、最終的には約750haの森林整備を予定しているところでございます。

引続き従来から実施しております、各種事業と併せまして、森林づくりに対する県民理解や森林整備の推進を進めてまいります。

11月には、一般県民を対象とした「森林づくり実感・体験ツアー」を開催して、森林税の活用状況や、森林整備等の重要性・森林からの恩恵などについて、より一層理解していただけるよう計画しているところでございます。

本日は、長野市、千曲市において実施している「みんなで支える里山整備事業」、「地域で進める里山集約化事業」、「木育推進事業」などの森林税活用事業や地域の課題等について、ご熱心に現地調査をしていただき、改めて御礼を申し上げます。

この会議におきましては、午前中の現地調査を踏まえながら、平成22年度森林税を活用した事業の実施状況等について、意見交換していただくこととしておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(3) 議 事 (松木座長の進行で実施)

(事務局)

平成22年度の長野県森林づくり県民税活用事業の実施状況について
関係資料に基づき説明する

その後委員との意見交換を行う

(中島委員)

木育推進事業の中の資材等譲与型ですが、計画された内容はこれでいいと思いますが、午前中見学した信里の現場では、地域で森林整備した間伐材があるので近くの信里小学校で行われた巣箱の作成などは、こうした材を使って取り組まれた方がいいのではないのでしょうか。

(徳原課長)

確かに、地元の木を使って子どもたちがものを作ることは、木育として大事なことです。今後、地元の要望を聞きながら、事業を計画する際には考慮していきたいと思います。

(神戸委員)

午前中、里山整備の現場を見せてもらったが、松くい虫の被害が目についた。地元で森林の整備をしているなら、少し費用を出して被害木の処理も地元をお願いしてやっていったらどうか。緩衝帯林整備も、最初はお金が付いてきれいになるが、その後、ちょっと目を離すとヤブになっている。こうしたところも、継続して維持できるようなお金の使い方も考えていただきたい。

森づくりの体験ツアーなどは良いことだと思うが、こうしたことを映像で県民の皆さんに知ってもらうことも効果があるので、テレビ報道してもらえるよう検討していただきたい。

(徳原課長)

今、一番困っているのが、松林の整備をどのようにしていくかということですが、当然マツを切りっぱなしにはできないので、その枝や幹を残さない施業が必要になります。森林税活用事業の中で対応できる部分もありますので、公共補助事業と組み合わせながら松林の整備をする必要があると考えています。また、松くい虫の被害材については、元気づくり支援金を活用して、例えば壁板やフローリング、家具などに利用する取り組みを行っています。

報道関係を通じてのPRですが、長野管内の場合、プレスリリースをしてもなかなか取り上げてもらえないのですが、今後も、放送局などに対して個別にお願いしていくなどしていきたいと思えます。

(山口委員)

森林税も今年で3年目になりますが、この森林税でどんなことが進んでいるのか、どんな状況なのか、県民の方々は分からないと思えます。実際には、広報などで出されていますが、紙媒体的なものが中心なので多くの人たちはおそらく見ていないと思えます。同じお金を掛けるのであれば、マスコミ関係をうまく使って、コマーシャルとかお金はかかると思いますが、県民の目や耳に触れる機会をもう少し増やすことを考えていただければありがたいと思えます。

(徳原課長)

森林税事業のPRにつきましては、もう少し地域の皆さんに分かりやすいようにと、所長からも言われているところですが、確かにこの前の世論調査でも、森林がきれいになってきていると思うという人が少なかったのですが、特に長野地域は都市部であるからかもしれませんが、割合が低い状況でした。テレビコマーシャルについては、昨年、1ヶ月ほど実施したことがあります。

また、森林税活用事業は今年で3年目ということで、真ん中の折り返し点になりますが、まだまだPRが足りないと思っています。間伐実施箇所には横断幕などを置いて、積極的にPRしていきたいと思っています。さらには森林税による事業の効果というものを是非県民の皆さんに知っていただいて、さらに継続できるようご理解をいただければと思えます。23、24年度は見直しの時期になりますので、さらに積極的な取り組みが必要だと思っています。

(高橋委員)

森林税は500円払っていますが、知らない人が多いです。源泉徴収票を見たけど、個別に出ている訳ではないので分からないと思えます。森林整備はまだまだ5年で終わるものでもないと思うので、ただ時限立法的にやるのではなく、県の恒久的なものの中に組み入れてもいいのではないかと思います。

PRについては、費用対効果の問題もありますが、どんなにお金掛けて活字にしても興味ないと読まないと思えます。知っている人が見れば取り上げてくれたと感じるのですが、関心のない人にとっては雑多な記事の中の一つでしかないわけで、でもどこかで知らしめていく、知ってもらう方法が必要ではあると思えます。

(井出課長)

森林税の徴収につきましては、市町村からくる通知がありますが、その備考欄に細かく記載されています。21年度6月末決算で、長野地方事務所管内の法人と個人からいただいた森林税は、1億7473万8千円という金額になっています。全県では、6億7275万6千円で、それが基本的に全額森林税活用事業として使われています。森林税は基本的にはアクションプランを実行するためにつくられましたが、計画は27年までありますので、5年間の後も間伐は必要です。アクションプラン達成のためには当然今のままやっつけていかなくてはならないので、森林税についても、もう一回延長をお願いする可能性があります。

しかし、県民の皆さんの理解を得ないと、この次はないということですので、積極的にPRしていかなくてはいけないと思います。

(徳原課長)

それから、先ほど、22年度は前年度の3倍以上になると説明をさせていただきましたが、長野地方事務所管内は非常に森林税を活用した取り組みが県下でも低い方で、長野市の鷺沢市長からも長野市に森林税ほどのくらい効果を及ぼしているかと担当課長に問い合わせしている状況のようなので、22年度は大きな数値で取り組ませていただいているところです。

(中島委員)

たとえば、小さな市町村ですと間伐材を使って自分たちの学校の壁に張ったり、椅子を作ったりして、木の温もりを感じたり、学校にきた保護者の方々が目で現物を見たり、触ったりして木の良さを理解してもらえと思うのですが、長野市のように学校数が多い中で、一校だけそういうことができるのか懸念しています。

なかなか自分たちの身近で肌で感じるができない訳で、森林や木材については、我関せずの生活をしている人たちが多数だと思います。森林税を導入する際は、物凄く皆さん関心を持ちますが、導入された後は500円が徴収されているという意識が薄れていると思います。

地方都市の地域では、身近に自然があるので、逆に関心を持ってもらうことが難しい状態なのではないかと思っています。

(徳原課長)

国の方でも公共施設はできるだけ木造にするようにと、利用を促進する法律を作って変わってきました。大事なことだと思っています。その点で信濃町ではすばらしい取り組みをされていますので、松木町長さんから説明をいただきたいと思います。

(松木委員(信濃町町長))

うちの町では、現在、ある小学校では、2年生と4年生の児童が0人という少子化になってきていて、小中学校5校を総合して1校にしようとしています。

その中の木質部分については、町の木を使いましょうと、町の木を使って、木の温もりを味わえるところで、安全で安心して勉強できる施設にしようとして取り組んでいます。木の方が割高になりますが、やはり木の温もり、特に昨今の家は木を

使っているところが見えづらくなってきているので、せめて学校ではそういうふう
にしようとして取り組んでいます。

(神戸委員)

スギは乾燥すると一番軽くなると聞いていますが、その軽さを生かした利用方法
について、森林税を使って、県民の皆さんから公募したらどうか。

(徳原課長)

今、いろいろな化学的に注入処理した木材がありますが、スギが一番やり易いと
言われています。そのような取り組みを信州大学と企業とが提携してやっているよ
うですが、そういうところでスギの用途が考えられると思います。

県の林業総合センターでも要請課題として取り組んでいますので、いろいろな開
発の中で、スギを使ったものが出てくるのではないかと思います。

意見交換終了後、次回の委員会の日程等を説明して議事を終了した。

(4) その他

事務局資料に基づき「長野県森林づくり指針(案)」の概要説明を行う

以上により第1回みんなで支える森林づくり長野地域会議終了する

みんなで支える森林づくり長野地域会議状況写真

1 現地検討会

(1) 長野市信里地区



(2) 千曲市大田原地区



(3) 千曲市大池地区



2 地域会議状況

